

早期の実用化と普及・促進に期待

～「150MHz帯の電波を使用する登山者等の位置検知システムに関する調査検討会」で報告書まとまる～



調査検討会
岡田座長



北陸総合通信局
星局長



150MHz帯の電波を使用する登山者等の位置検知システムに関する調査検討会」は、3月12日（木）に金沢市内で最終会合（第4回）を開き実現方策等の提言を含んだ報告書を取りまとめました。

同検討会は、山小屋などから登山者の位置を把握し見守りができるシステムの実現を目指し同システムの技術的条件等の明らかにすることを目的として昨年7月から開催されているもので、これまでに会合のほか作業部会での検討、モデルシステムによる実証試験等を積み重ねてきました。

報告書の中では、実フィールドによる実証試験によりシステムの実現性、有用性が確認できたとして、システムの構成・必要な機能、動物検知通報システムとの周波数共用方策、山岳での通信エリアの確保などの具体的実現方策が示されているほか、無線設備の技術的条件、実現に向けて取り組むべき課題等が提言として取りまとめられています。

また、有用性が確認された登山者等の位置検知システムの技術は、周波数を共用する動物検知通報システムに転用することが可能であり、それにより、野生動物の生態調査等の精度及び作業能率の大幅な向上に貢献できる可能性があることにも言及しています。

最後に、同調査検討会の岡田敏美座長（富山県立大学教授）から北陸総合通信局の星克明局長に報告書が手渡され、局長からは、委員に対するお礼と今後の実現に向けた取り組みについての決意が述べられ閉会しました。